

## 世界のソーシャル・ビジネス

欧州編  
オーストリア緑のコーヒー豆飲料  
若手起業家が開発

オーストリア・ウィーン郊外で生まれた、新ジャンルの飲料「ベルンシュタイン」が欧州で人気だ。2015年、当時19歳だった若者2人が開発した飲み物で、焙煎していない緑のコーヒー豆と地元産ハーブや果物を使用。豆はニカラグアやペルーから、オーガニックでフェアトレードのものを輸入している。

(ハノーファー＝田口理穂)



さわやかな飲み口のベルンシュタイン (撮影: エリアス・クルテンベルガー)

開発者はルーカス・レンツとマーティン・パウルの2人。調理や給仕、観光を学ぶ職業学校を卒業した同級生だ。

ルーカスが2013年にサウジアラビアのホテルで働いていたとき、焙煎していない緑のコーヒー豆から飲み物を作っているのを初めて見た。もともとルーカスは「市場に來回っている清涼飲料水は『色つき砂糖水』。本物の材料を使い、価値ある飲み物をつくりたい」と考えていた。

そこで緑のコーヒー豆からエッセンスを取り出し、オーストリアの伝統的なハーブや果物を使うアイデアが生まれた。コーヒー豆はニカラグアやペルーから、オーガニックでフェアトレードのものを輸入している。

## 懐かしい素材で新たな味

「ベルンシュタイン」は2種類ある。起業当初から販売している「コーネル」はコーヒー豆に、おばあちゃんの味とい

ベルンシュタインを手にするルーカス・レンツ (撮影: フランツ・レンツ)



われる「ニワトコの花」のジュース、中世のころから酢の代わりに使われてきたブドウの果汁をメインに、ハイビスカスで赤い色を付けた。

2017年に新登場した「マルメロ」は、コーヒー豆とブドウ果汁のほか、オーストリアで昔からよく食べられていたマルメロ(カリン)とリンドゴを使った。馴染みのある味なのに、新鮮な爽やかさがある。社員は5人に増え、毎年数十万本出荷するまでとなった。

「ベルンシュタイン」のベルンは「熊」、シュタインは「石」という意味。つづりは違うが、

ベルンシュタインの発音は「琥珀」を表す。熊と石はともに強く、琥珀は古くて良いものを閉じ込めている。商品名にはそんな思いを込めた。

2017年12月に「オーストリアの若い企業100」に選ばれたほか、これまでオーストリア国家賞やビジネスプラン賞など数々の賞を受賞した。2016年にパリで開かれたカクテルコンテスト「モナン・カップ」では、ベルンシュタインを使ったカクテルが世界第2位に輝いた。

若い2人の起業は、地域活性化につながり、他の若者が故郷を見直すきっかけになっている。「地元の材料を使うのは、地に足がついていることを意味する。僕らはまだ若いから」とにこやかに話すルーカス。スイスやノルウェーなど外国でも販売しており、「オーストリアの伝統的で新しい味を、日本の人も飲んでほしい」と日本進出も考える。